

### 3 日本初 レート保証型外国為替情報と取引情報のデータ流通サービス

## 創り上げるは 地球の歩き方「体験革命」 ～グローバル電子マネー オンライン連携プラットフォームサービス 「Wallet Exchange®」～

イノベーションセンター プロデュース部門 部門長 東出 治久 担当課長 加藤 恭英 主査 友田 光哉、沼 健太郎、今田 晴菜

NTTコミュニケーションズ（以下、NTT Com）イノベーションセンター プロデュース部門では「5年、10年先の未来を見据えた世界観を想定し、社内外と共創しながら新たな価値を創造することで社会に貢献し、“お客さまから信頼されるNTT Com”でありたい。」という思いから、様々な業種業態のお客さまとの共創によるxTechビジネスを推進している。本稿では、その一例としてFinTechの取り組みについて紹介する。

#### Why [FinTech] ?

NTT Comは通信キャリアとして長年データの利活用を目指し、多様な「データ」の「流通」や「交換」を提供している。さまざまなお客さまやパートナーと共に、次なる社会的・経済的な常識の創出につながるビジネスを創造するため、データの1つとして着目したのが「通貨」であった。データとしての通貨の流通や価値交換により「新しい常識」を創出するFinTechは、まさにNTT Comの本業を徹底的に活かした「デ



〔左から〕東出治久、加藤恭英、友田光哉、沼健太郎、今田晴菜

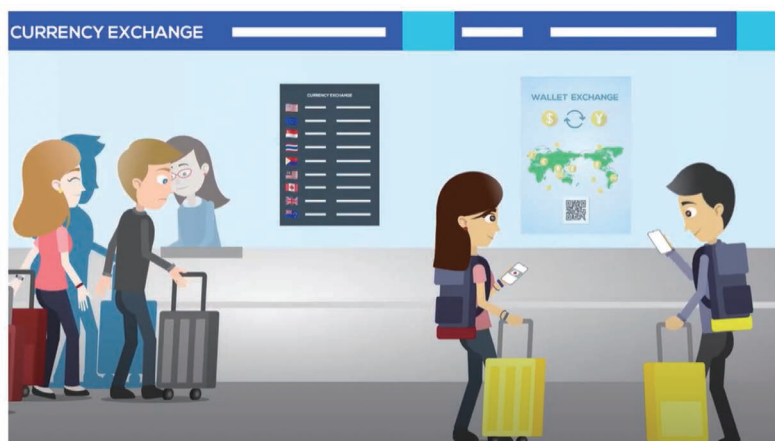
ジタル事業」である。

FinTechと言えば「〇〇 Pay」のような電子マネー事業者が連想されやすいが、NTT ComはBtoBtoXの「Center B」にあたるお客さまのDXに直接貢献することで、その先にいるエンドユーザーに新たな体験価値を提供しSmart Worldを支えていくことを

重視している。具体的には2つのFinTechを提供する。1つはすでに提供中の“Home Currency Anywhere®（以下、HCA）”、もう1つは現在開発中の“Wallet Exchange®（以下、WEX）”だ。

#### レート保証型の外国為替情報と取引情報のデータ流通サービス HCA

HCAは外国為替レートおよびリファンドレートを一定期間保証するオンライン外国為替情報と取引情報のデータ流通サービスだ。もともとはWEXを創り上げるための要素機能（一定期間レート保証型 外国為替API）としてシンガポールのパートナーと開発したが、多くのお客さまから「その機能が欲しい」と大きな反響をいただいたためHCAと名



1 Wallet Exchange® ユースケースイメージ

付けて2019年11月から提供を開始した。

HCAは前述のCenter Bビジネスに対して「自国通貨表示／決済」というクロスボーダービジネスでの新たな顧客体験価値を付け加え、ビジネスを大きく成長させることに貢献する。現在「BtoCの越境ECサイト」、「BtoBの輸出入・貿易」を展開しているお客さまへ、新たな顧客体験を提案している。そのお客さまには20ヵ国以上に取引先があるが、どの取引先の自国通貨でもない「USドル」で価格表示／決済を行っている。これを取引先毎の「自国通貨」での価格表示／決済に置き換えることで、誰しにも分かり易い新たな顧客体験価値を創りあげるという提案だ。

我々日本人を含め、不慣れな外貨を扱うことはベストな体験ではない。世界中の人にとって、どこに居ようが・行こうが、誰とビジネスをしようが、自国通貨（Home Currency）で生活・消費・契約することがベストな体験であり、これがHCAの提供価値となる。これに加え、HCAはリファンドレート保証という他にはない特長を併せ持つ。

現在、多くのお客さま／パートナーとNDAを締結してHCAのPoC（実証実験）を行っている。ここでは2社のお客さま／パートナーとの取り組みについて紹介する。

まずは沖電気工業株式会社様。同社が提供する“SDBC（スマートデバイスビジネスコネクター）”や“CounterSmart（カウンタースマート）”にHCAを組み合わせたセルフ端末向け新サービスの共同開発を行っている。さらに、With／Afterコロナの非対面接客・店舗運営効率

- ① 電子マネー事業者さま：決済業務
  - ② NTT Com：外国為替情報データ流通処理機能API
  - ③ M-DAQ：FX機能API
- (例：シンガポール<SGD>⇒日本<JPY>)

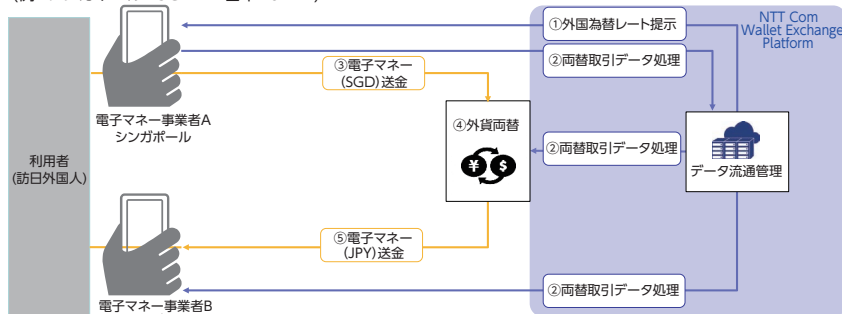


図2 Wallet Exchange® ビジネスモデルイメージ

化も積極的に開発を進めている。

次に、株式会社ジェーシービー様。同社と2020年10月8日に発表した世界初の外貨為替レート保証付き多機能モバイルウォレット「JCB Mobile Wallet（仮称）」の共同開発を行っている。以下3つの「Multi」が特長だ。

- (1) Multi Currency
- (2) Multi Account
- (3) Multi Service

### “Wallet Exchange®”が目指す世界観：地球の歩き方体験革命

WEXをサービスとして表現すると、「『電子マネー』間で『チャージ残高』を行き来させる電子マネー事業者向けプラットフォームサービス」となる。「航空アライアンス」の電子マネー版に近い概念だが、WEXの提供価値は「体験」である。

「空港の両替所にできる長蛇の列」、「初めての国でいくら両替すれば良いかすら分からない」、これらは最悪の体験だ。日ごろ使い慣れた電子マネーの残高を、訪問国で使える電子マネーに24時間いつでもチャージし、足りなくなったら追加できる。これがあるべき体験であり、WEXが提供す

る価値だ。旅行もビジネスもグローバルが当たり前になった現代において、そのグローバル（地球）の歩き方体験に革命を起こす。

WEX利用者は海外の空港に到着後、スマートフォンでそのまま鉄道やTAXIに乗り、目的地では使い慣れた電子マネーで買い物ができる。もはや自国にいるのと何も変わらない。2週間以内なら両替時のレートで自国通貨に戻すリファンドレート保証もHCA同様に提供する。

電子マネー事業者はWEXによって海外の事業者と相互連携し会員／加盟店を圧倒的に増やせる。ただしWEXで世界中の電子マネーすべてを繋ぐことは考えていない。WEXは地球の歩き方体験革命の手段であり、その体験を伴うMaaS（Mobility as a Service）系電子マネーにフォーカスしている。まずASEANでWEX経済圏を創ることが最初のマイルストーンだ。

HCA／WEXは日本国内でビジネスモデル特許を取得し、国際特許も申請済みだ。NTTグループを含め国内外のパートナー企業と共に、明日の新たな常識を世界に届けて行きたい。